

編集後記

今号では巻頭言に、京都大学の家村先生から、深い谷に架ける新しい橋梁形式に関するアイデアをご披露いただきました。新しい構造形式などの提案が少ない鋼橋業界への叱咤激励であると重く受け止めています。誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。

鋼構造物の製作は、主に切断と孔明けならびに溶接です。構造物全体の強度は継手部の強度に左右されることが多く、設計で想定した性能を持つ溶接を行うことが、とりわけ重要です。しかし、溶接は施工条件に敏感で、微妙な違いによっても性能が大きく変わってくることがあります。したがって、しっかりした溶接を行うには、溶接工法ごとに試験のデータなどを数多く蓄えておく必要があります。当社においても溶接技術向上のため地道な積重ねを行ってきています。今号には、その一部である鋼橋のヤード・現場溶接工法の技術的変遷を掲載しました。今後の溶接技術向上につながることを願う次第です。

技報編集委員会

委員 長	高 崎 一 郎			
副 委 員 長	成 宮 隆 雄	太 田 武 美		
委 員	石 川 通 陽	伊 藤 徳 昭	金 原 慎 一	
	桑 山 豊 六*	小 林 稔	佐 藤 徹*	
	坪 井 幹 男	内 藤 章 吾	永 見 研 二*	
	西 垣 登	能 登 宥 愿	長 谷 川 宜 宏	
	牧 野 克 彦	松 本 泰 成	森 下 統 一	
	吉 川 薫			

*印 事務局兼務

宮地技報 第15号

発行日 平成11年12月25日

発行所 株式会社宮地鐵工所

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町7番5号

(豊和大伝馬町ビル) TEL03(3639)2111 (代)

印刷所 望月印刷株式会社